

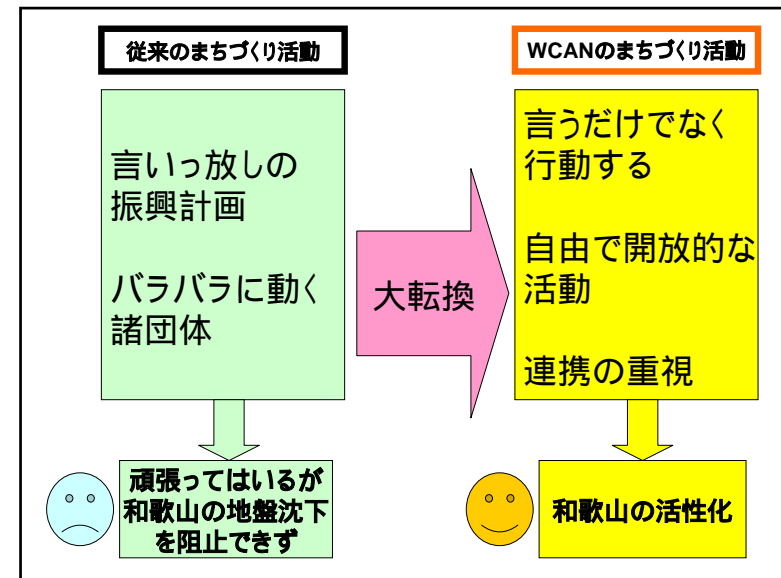
南海貴志川線存廃問題をめぐる 住民活動の展開

辻本勝久(和歌山市民アクティブネットワーク貴志川線分科会)
ktjapanh@emily.eco.wakayama-u.ac.jp

1.WCANの紹介

和歌山市民アクティブネットワークとは

- ・和歌山市の中心市街地活性化などを目的とする市民活動組織。略称「WCAN」(Wakayama Citizens Active Network)
- ・代表は小田章・和歌山大学学長
- ・事務局は(財)和歌山社会経済研究所
- ・参加資格「自立した良識ある市民で和歌山が好きな人」
- ・現在、メンバー数は175人、分科会数は11(04.11.10には149人であった)
- ・最大の特徴は「行動する分科会方式」。この指止まれ方式で次々に分科会を造っており、目標は、100分科会・メンバー1000人



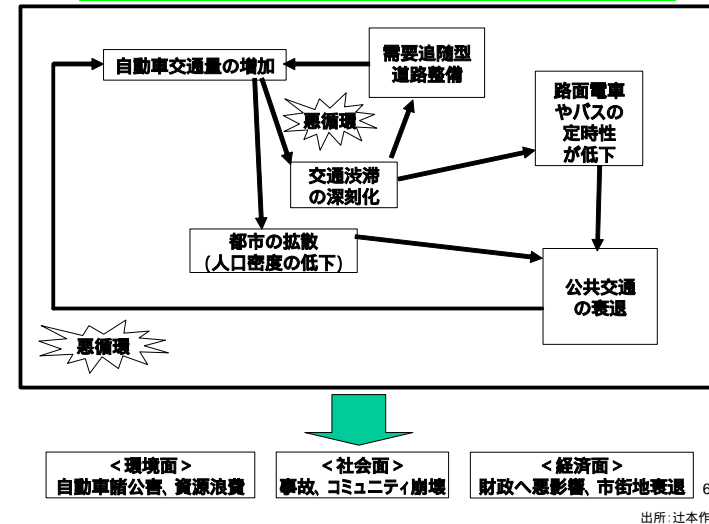
貴志川線の概要(平成16年度)

- ・営業キロ 和歌山-貴志間 14.3km
- ・駅の数 14駅
- ・年間輸送人員 192.6万人 (5277人/日)
- ・輸送密度 3127人 (平成14年度)
- ・運転本数 平日96本/日 休日78本/日
- ・営業赤字 5億670億円(平成15年度)
- ・営業係数 262 (平成15年度)
- ・鉄道要員 42人
- ・固定資産 21億9200万円(平成16年末)
土地6億5800万円、駅舎等15億3400万円

対H7年度
70.2%
対前年度
97.0%

5

自動車依存型まちづくりは、いずれ行き詰ります



6

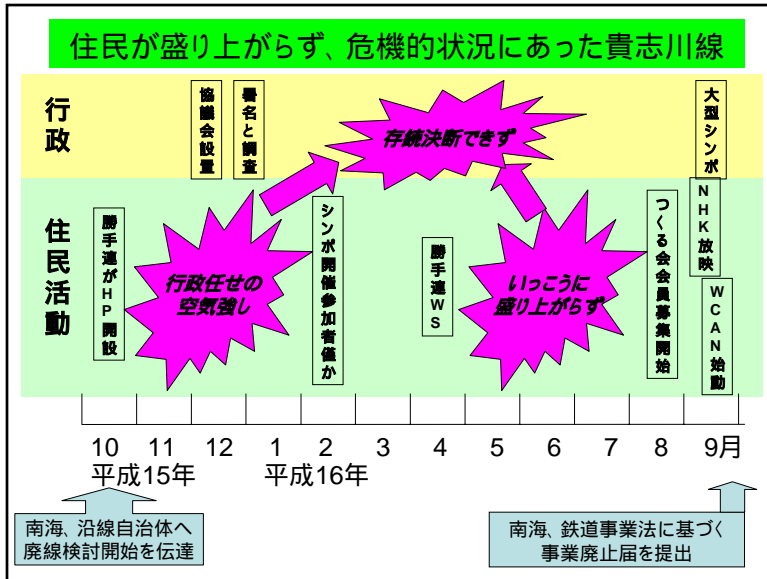
貴志川線への思い

- ・貴志川線は、自動車依存病進展という「津波」の防波堤
 - ・貴志川線まで廃止ともなれば、あとは将棋倒し
 - ・貴志川線問題をきっかけに市民・行政の意識を変革できれば、大津波といえども押し戻すことができる
 - ・「持続可能な和歌山都市圏の形成」のためにも貴志川線問題を徹底的に議論し、行動したい
- ・幸いにも、貴志川線の存続が決定した
- ・これからも、都市圏レベル以上の視点を持ちつつ、貴志川線に関与していきたい。経済活力・コミュニティ維持・環境保全のバランスが取れた持続可能な和歌山都市圏づくりを目指して、積極的に活動していきたい

7

2. 今回の貴志川線存廃問題と 住民活動

8

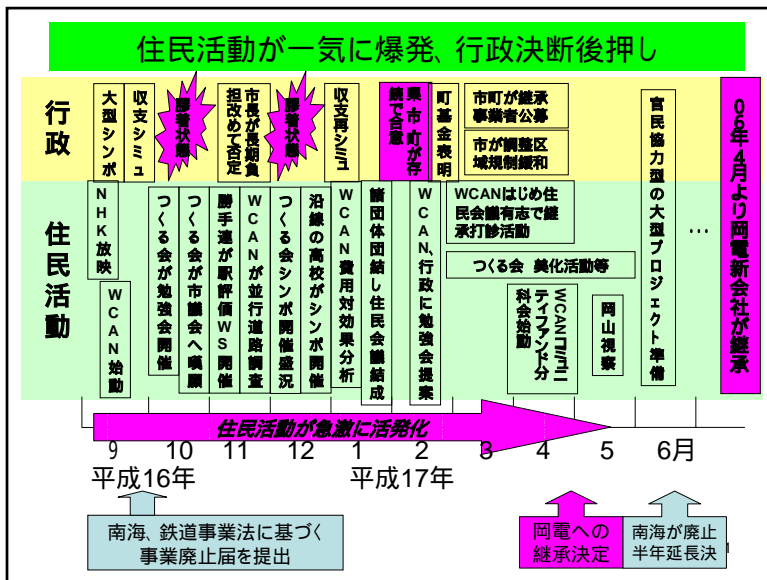


今にも消えそうな長くて、細い導火線

今にも消えそうな、長くて、細い導火線でした...

- 2003.10 「南海貴志川線応援勝手連」がWebページ開設し、情報収集・提供活動を開始
のちにNHKの目に留まり某番組へとつながった
- 2004.2 「貴志川の水と環境をまもる会」がシンポジウムを開催
・貴志川町で開催。町長も登壇。しかし、聴衆はわずか数十名
- この状況を憂慮し「批判型・受け身型」の住民活動から、「提案型・行動型」の活動への転換が必要と発言（辻本基調講演）
のちに「貴志川線の未来を“つくる”会」を設立する
方々も聴講。住民活動の導火線として一定の貢献
- 2004.4 「南海貴志川線応援勝手連」がワークショップを開催
- 2004.8 「貴志川線の未来を“つくる”会」設立され会員募集開始
WCAN内に「貴志川線分科会」設置構想が持ち上がる

行政の決断を後押ししてはくれるはずもない



貴志川線に対する支援の枠組み (2005.2.4 県・市・町合意)

和歌山県

- 和歌山市・貴志川町の鉄道用地取得費を補助金で全額負担
- 将来の大規模修繕費として累計2.4億円を上限に支出
- ただし、次の2条件付き
 - 県は鉄道運営の主体として参画しない
 - 両市町が10年以上の運行を担保する

和歌山市・貴志川町

- 土地は市と町が保有する（運営事業者に固定資産税がかからない）
- 運行事業者への赤字補てんについて、市が65%、町が35%の割合で、8億2000万円を上限に10年間負担する
- 県の協力のもと、運営を引き継ぐ民間事業者を公募する
- 可能な限り民間の協力を得て、利用促進に努める

12

今回が初めてではなかった貴志川線の廃線危機

・1939(昭和14)年の廃線危機

- ・昭和初期・・・バスやトラックとの競合激化、戦時下でのガソリン統制、車両故障の頻発、運行信頼性の低下、採算が悪化
- ・和歌山鉄道、全線の自動車専用道路化とバス・トラック輸送への転換を模索
- ・地域住民は「反対地方民大会」を開催し、「交通機関本来の使命を顧みず目前の営利打算に急なる余り、地方の開発産業の振興を無視する企てなり」との反対決議案を可決
- ・しかし株主総会で廃線、専用道化、バス・トラック転換可決
- ・沿線住民の陳情と、当局者による調査の結果、3ヶ月後、バス転換は撤回され、電化による更正を目指すことに

自動車
と競合

住民の
奮闘

抜本策
で打開

今回の廃線危機と似た構図

(参考資料 武知京三「わが国軽便鉄道史の一側面 - 山東軽便鉄道の場合 -」
『歴史研究』第21号、1980年、61-85頁)

13

3. 今後の住民活動

14

住民や地元研究者の取り組み方向

・何よりもまず、乗ること！日常的利用を増やすこと

15

H16年度下期、定期客の貴志川線離れが急加速

単位:千人

		廃止届前(上期)		廃止届後(下期)		通期		
		実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	
定外	15	357	-	336	-	693	-	
	16	337	-5.6%	324	-3.6%	661	-4.6%	
定期	通勤	15	346	-	328	-	674	-
	通学	16	335	-3.2%	308	-6.1%	643	-4.6%
	合計	15	312		306		618	
合計	16	318	1.9%	304	-0.7%	622	0.6%	
	15	1,015	-	970	-	1,985	-	
	16	990	-2.5%	936	-3.5%	1,926	-3.0%	

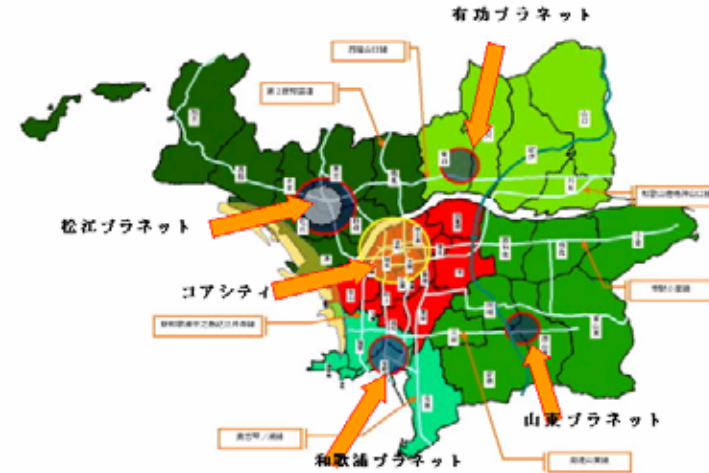
定期外の動きと対称的！
イベント頼みの体質へ？

住民や地元研究者の取り組み方向

- ・何よりもまず、乗ること！日常的利用を増やすこと
- ・**實志川線を含む公共交通活性化策の企画と提案**
- ・企画提案力で岡電新会社を間接支援
- ・都市圏全体を視野に市民参加型「和歌山モデル」提案
- ・公共交通志向型まちづくりへの粘り強い誘導
- ・目下、「和歌山都市圏における市民参加のもとでの公共交通活性化総合プログラム(仮称)」応募準備中(7月より会合開始)
- ・目下、「交通まちづくりサロン」の定期開催と、「鉄道まちづくり会議(もしくは交通まちづくり会議)in和歌山」開催、カフェテリアや図書館で気楽に読める「交通まちづくり読本」を企画

17

和歌山アトミック・コンパクトシティ構想



出所:和歌山グランドデザイン策定委員会(2003)

WCANで議論中のLRT化案(A)



WCANで議論中のLRT化案(B)



駅の位置を示す案内看板が・・・(1)

貴志駅はどこですか??



幹線道路脇の坂を上ると貴志駅
しかし、案内看板が見あたりません

駅の位置を示す案内看板が・・・(2)

日前宮駅はどこですか??



コンビニの脇を数十m入ったところが日前宮駅
しかし、案内看板がどこにも見あたりません

22

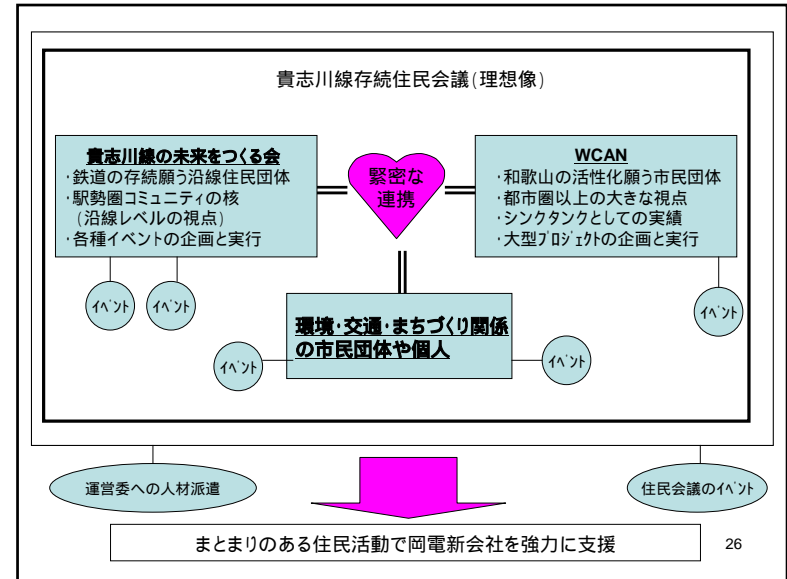
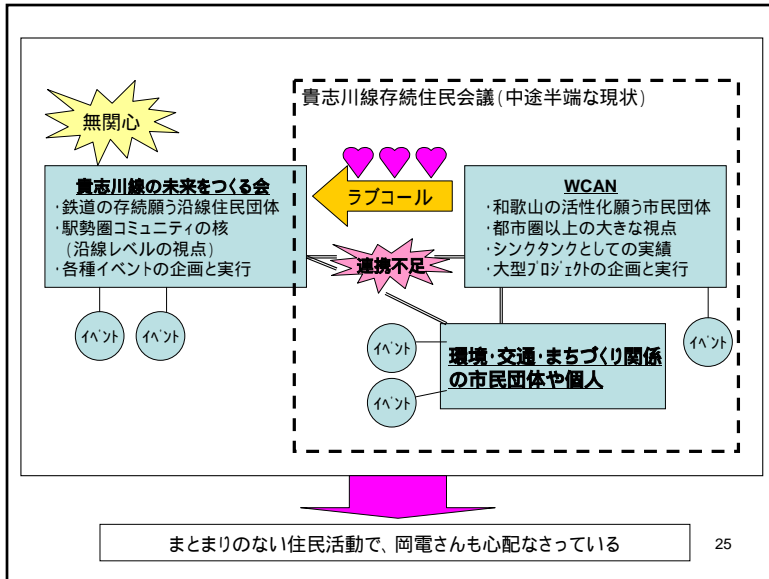
住民や地元研究者の取り組み方向

- ・何よりもまず、乗ること！日常的利用を増やすこと
- ・貴志川線を含む公共交通活性化策の企画と提案
 - ・企画提案力で岡電新会社を間接支援
 - ・都市圏全体を視野に市民参加型「和歌山モデル」提案
 - ・公共交通志向型まちづくりへの粘り強い誘導
 - ・目下、「和歌山都市圏における市民参加のもとでの公共交通活性化総合プログラム(仮称)」応募準備中(7月より会合開始)
 - ・目下、「交通まちづくりサロン」の定期開催と、「鉄道まちづくり会議(もしくは交通まちづくり会議)in和歌山」開催、カフェテリアや図書館で気楽に読める「交通まちづくり読本」を企画中
- ・**「ひとりひとり、小さくても、できることから、無理せず支援」**
 - ・駅の清掃、プリンター設置、駅舎への図書コーナー設置、改善提案等。支援活動 商店街ポイント付与 公共交通の割引券等に交換 という地域通貨の試み²³

住民や地元研究者の取り組み方向

- ・何よりもまず、乗ること！日常的利用を増やすこと
- ・貴志川線を含む公共交通活性化策の企画と提案
 - ・企画提案力で岡電新会社を間接支援
 - ・都市圏全体を視野に市民参加型「和歌山モデル」提案
 - ・公共交通志向型まちづくりへの粘り強い誘導
 - ・目下、「和歌山都市圏における市民参加のもとでの公共交通活性化総合プログラム(仮称)」応募準備中(7月より会合開始)
 - ・目下、「交通まちづくりサロン」の定期開催と、「鉄道まちづくり会議(もしくは交通まちづくり会議)in和歌山」開催、カフェテリアや図書館で気楽に読める「交通まちづくり読本」を企画中
- ・**「ひとりひとり、小さくても、できることから、無理せず支援」**
 - ・駅の清掃、プリンター設置、駅舎への図書コーナー設置、改善提案等
 - ・**「貴志川線存続住民会議」の正式成立と運営委参加**

24



ご静聴有難うございました

27